

Hello! FUJISEI

No. 136

少子・高齢化が進む日本ですが、少子・高齢化は多産多死から少産少死への転換によるものであり、先進国共通の現象ですが、日本の場合は、先進諸国と比較して急速に進展している点が特徴となっており、少子化の背景として、進学率の高まりと女性の社会進出が挙げられます。

大学進学率は1950年代には男性が10%台、女性が2%台でしたが、2010

(平成22)年には男性が56.4%、女性が45.2%と大幅に増加しており、高学歴化が進んでいます。女性の短大への進学者を含めれば半数以上の者が大学や短大に進学しており、大学や短大への進学は珍しくなくなっています。さらに、これを背景に、特に独身女性が希望するライフコースが専業主婦志向から、仕事と家庭の両立や非婚就業志向へと変化しました。

国立社会保障・人口問題研究所が2010(平成22)年6月に実施した「第14回出生動向基本調査(結婚と出産に

進学率の高まりと女性の社会進出

独身女性が希望するライフコースが変化

関する全国調査)」によると、未婚女性が理想とするライフコース(理想ライフコース)は1990年代に「専業主婦コース」が減り、「両立コース」が増えましたが、その後は大きな変化はありません。

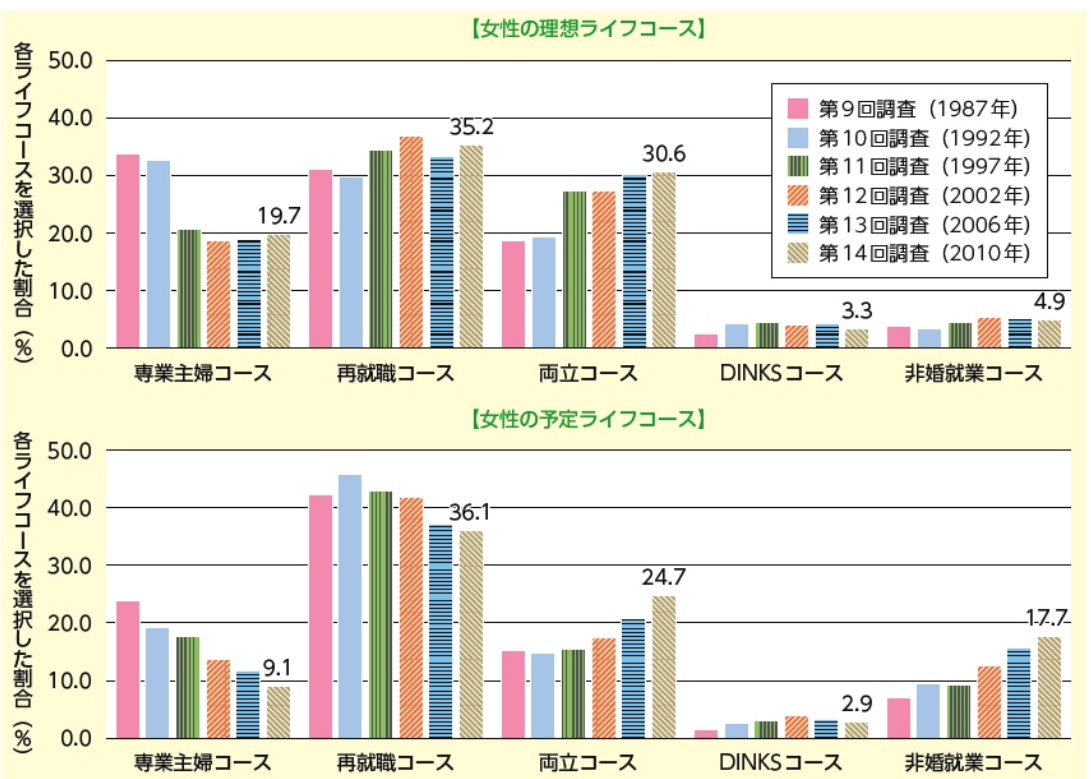
一方、実際になりそうだと考えるライフコース(予定ライフコース)では、専業主婦コースの減少が現在まで続いており、2010年にはじめて1割を下回りました(9.1%)。また、これに代わって両立コースおよび「非

婚就業コース」の増加傾向が続いています。

また、未婚男性がパートナーとなる女性に望むコースでも、両立コースを望む人は2000年前後に専業主婦コースを望む人を凌駕し、2010年には3割を超える(32.7%)一方、専業主婦を望む人は1割(10.9%)に減少しています。

当然のことですが、自らのライフプランに合わせ、必要な保障も変わります。

女性の理想・予定のライフコースの変化



(「平成24年版 厚生労働白書」より)